

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2172800290 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 すずらんの木 | | |
| 事業所名 | NPO グループホーム すずらんの木 (1ユニット) | | |
| 所在地 | 岐阜県下呂市萩原町羽根437-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年10月5日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年12月3日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172800290&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル |
| 訪問調査日 | 平成22年10月20日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ICFやパーソンセンタードケアなどの勉強会を継続して行い、それらの視点と理念である『尊厳を守ること』を大切にケアプランを作成し、それに基づいたケアができるよう職員全体で取り組んでいます。職員は常に考えながら行動し、利用者の思いに寄り添いながら専門性を高めて支援していけるよう努めています。まだまだ十分ではありませんが、職員一人ひとりが責任や意識を高め、理念に近づけるよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者の尊厳を大切に」を目指し、職員一人ひとりが、意識を高めながら、日々ケアに取り組んでいる。事業所内では、月に3回の勉強会を開き、認知症の最新情報や専門知識を学んでいる。利用者が、どのように感じているかを大事にした、本人中心のケア(パーソン・センタード・ケア)を実践している。利用者が持っている残存機能や生活経験を引き出し、生活の中で役割を担うことで、生活の質を高め、豊かな暮らしを支えている。職員の中には、介護福祉士6名、認知症ケア専門士2名がおり、常に向上を目指し、研鑽に努めている。職員間の連携を密にし、限りある時間を大切に「利用者中心のケア」を実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価票(1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎月3回の勉強会とカンファレンスにおいて理念に基づいた課題(パーソンセンタードケア、ICF)を用いて、職員間の理解を深め、日々の介護に反映できるよう努めている。 | | 地域の人々と協力関係を築きながら、「すべての人の尊厳を守る」を理念に掲げている。管理者・職員は、勉強会の度に、理念を確認・共有し、「利用者を中心とした、本人本位のケア」を実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的に散歩や買物に出掛け、買物時は利用者に品物を選んでもらったり、外食、ドライブ、ピクニックなど地域や学校の行事(祭り、運動会見学)への参加もしている。 | | 近隣の人々が、気楽に訪れ、お茶を飲みながら、日常的に会話を交わしている。自治会の一員として、運動会・祭りなどの町内行事には、積極的に参加している。地元の保育園児やボランティアとの交流も行われている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 普段からホームへの出入りを自由にして頂いているが、夏季に夏祭りとして地域の方々に参加していただけるよう声をかけ、地域の皆さんと楽しんでもらう機会を作ったり、定期的に新聞を作り、ホームでの生活を伝えている。 | | / | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年も行えていないが、スケジュールを調整している。 | | 運営推進会議は、行われていない。前年度からの継続課題となっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 面会や施設訪問の中で話し合いながら協力関係を築くよう努めている。 | | 市へは、定期的な事業報告と、利用者の困難事例について相談している。経済的に困った人、後見人の必要な人、事業運営基準などで、助言や指導を受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については、勉強会などで学んでいる。特殊な例があった場合は、ご家族の理解・承諾を得ることにしている。 | | これまで、身体拘束をしないケアが行われている。勉強会で、拘束の内容や弊害について学び、利用者の「尊厳」を守るケアを実践している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修等に参加し、虐待について勉強会などで理解し、防止に努めている。入浴時など、日常的な関わりの中で、利用者の様子に気を配るようにしている。また暴力だけでなく、精神的な虐待についても理解を深めるようにしている。 | | / | |

岐阜県 NPOグループホームすずらんの木

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修に参加し、理解を深め、制度を利用することができるよう準備している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所時にはご家族や本人と話す機会を作っている。契約の説明を職員、管理者と行い、理解・納得を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者には日頃から意見を伺うよう努めている。面会に家族が来られた時や、イベント時に家族会を設け、意見要望を聞いている。また、会議で意見、要望などについて話し合いをもっている。家族には月1回ホームでの生活を手紙で報告し、訪問時にも伝えるようにしている。 | 家族の訪問時や、行事参加で集まった家族からも意見・要望を聞いている。家族からは、本人の状態をメールで知らせてほしいとの要望や、居室の環境整備に関する意見もある。意見・要望は、職員会議で話し合い、速やかに対応している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見、提案を日常的に聞き、勉強会などで提案し話し合いをもっている。 | 職員の意見・提案等は、職員会議(勉強会を含む)で、積極的に発言している。重度化に伴うケアの注意点や職員間の役割り分担・調整など、多様な意見がある。意見や提案には、速やかに対応する仕組みができています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課を行い、職員の勤務状況を把握し、声をかけている。環境、条件の相談が出来る。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の能力の把握に努め、研修会や講演会、勉強会に積極的な参加を促している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修等への参加によって、他施設を知る機会を持ち、ホームのサービスを客観的に評価し質の向上に役立っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にできるだけ面談の機会を持ち、ご本人の不安や緊張を取り除くような関わりを多くし、顔なじみになれるよう努めている。本人の気持ちを大切にしながら、安心して頂けるような環境作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の思いをよく聞いて、ケアに反映させるようにしている。話しやすい雰囲気を作りながら、信頼関係を築けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 今一番何が必要なのかを見極め、様々な社会資源を視野に入れた上で話をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者一人ひとりの得意なこと、好きなことを活かした関わりを大切にしている。色々なことを教えて頂きながら、共に喜び合ったりしながら関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者の様子を面会時や月に一度の手紙で伝え、利用者の状態やお気持ち、現在のケア状況が伝わるよう努めている。また、ご家族に協力して頂けることはお願いしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | いつでも自由に面会して頂いている。面会時などは、ゆっくりと話せるような環境作りを心がけている。本人の行きつけの美容院等の場所に行けるよう支援している。 | 知人・友人の訪問が多く、ゆっくり話し合う場面を提供している。馴染みの店での買い物、美容院、喫茶店、外食等へ職員と同行し、継続的に支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関わりを大切にしながら見守り、不和になりそうな時は距離を置いてもらえるよう、さりげなく間に入ったりするなど働きかけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も必要に応じ相談等に応じている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常の中での会話や表情、動作、体調をみながら本人の意向の把握に努めている。ケアプランにも本人の思いを反映できるようにしている。 | 日常会話の中で、思いや意向を把握し、困難な人は、表情や動作から思いを汲み取っている。個々の思いや意向は、全職員で共有し、日々の暮らしや介護計画に反映している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ケアマネからの情報提供やご家族からの情報を活用し、これまでの生活歴をできるだけ把握し、ケアにつなげられるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個別記録や申し送りノートにより、把握に努めているが、職員によって把握状況が違っている。情報の共有をしっかりと行い現状把握していかなければならない。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族の意見を聞いたり、カンファレンスの際の職員同士の意見交換を行い、一人ひとりに合った介護計画を作成している。センター方式の一部を家族に記入して頂き、意見や希望を頂くよう努めている。 | 毎月1回、職員会議の中で、意見やアイデアを取り入れて、介護計画を作成している。また、本人・家族の意向や、かかりつけ医、看護師とも話し合い、介護計画に反映させている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員は勤務開始前には必ず個別記録の確認をするようにしている。毎日個別記録に記入し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしているが、趣旨に添った記入ができていけば、もっと反映できると思う。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時の本人の状態に合わせ、担当者が中心となり職員間に伝え合い、柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。また、プランに付け加えたりもしている。 | | |

岐阜県 NPOグループホームすずらんの木

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 市や地域の催しに出かけている。太鼓グループや落語などボランティアの協力も得て楽しく豊かな暮らしができるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 近くに医院があるため、定期的な受診や往診、急変時にもすぐに適切な医療を受けられる環境にある。 | 運営に携っている医院が、道路を隔てたところであり、入居時に、本人・家族の理解を得て、利用者全員のかかりつけ医となっている。月2回、医師の往診と訪問看護があり、24時間の連絡体制もできている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 受診時には、利用者の体調や気になることを看護師に伝えている。往診時は口頭で伝え、分からないこと、不安なことは相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時にはサマリー等により、ホームでの生活の様子や、本人の性格、サポートの仕方など、できるだけ詳しく伝えるようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 事前に家族・医師・事業所で確認をしながら支援している。早い段階でご家族との話し合いを十分に行い、納得された上で、ホームで出来る限りのケアをさせて頂いている。 | 重度化や終末期に向けた指針を定めており、利用者の重度化が進んだ段階で、確認書と同意書を家族と交わしている。医療との連携が確保され、看取りの希望に応じている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 最近には行っていないため、定期的に行う必要がある。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 緊急時の連絡網を作成し、非常用の備品は設置場所に確保している。また年に二回避難訓練を行っている。 | 年2回、消防署の指導を受けて、避難訓練を行っている。近隣には、5件の住宅と、1企業があり、事業所関係者の自宅もある。災害時には、数分以内に対応できる協力体制を築いている。 | ホームとして、夜間を想定した避難の自主訓練の計画予定があるので、その取り組みに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 信頼関係を築き、失礼のないような言葉かけをしている。ICFやパーソンセンタードケアを勉強しながら職員の意識を高め、対応の徹底を図っている。 | 一人ひとりの人格尊重について、具体的に話し合っている。周りに気配りしたトイレ誘導、入浴時には羞恥心に配慮している。誇りを損ねないように、指示語や命令口調のないようにしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 場面場面で利用者が自己決定できる機会を作ろうと料理、入浴、トイレなどで本人のペースで決めて頂くよう働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の基本的な流れ(食事時間など)は決まっているが、職員間で利用者に合わせて1日の過ごし方を相談したり、本人の希望に合わせて支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 美容院は行きつけの店に行っている。外出が難しい利用者には美容師に出張して来てもらっている。その日に着る服に関しても、選べる方には選んで頂くように促している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と一緒に食事のメニューを考え、作り、食べ、片付けも行っている。会話を多く持ちながら楽しいものとなるように努めている。料理のことなど教えていただく場面も多い。 | 利用者も、食材の買出しから、メニュー作りを一緒に行っている。また、自前の畑で採れた野菜類を話題にして、食事を楽しんでいる。利用者の経験を活かした、地元の料理、ほう葉寿司、漬物づくり等にも喜んで取り組んでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの体の状態を把握し、塩分、水分等控えなくてはならない方もみえるので気を付けている。栄養のバランスを考えながら、又、水分摂取が確実に出来るよう汁物を付けるなどしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 朝の起床時、夜の就寝時の2回行っている。自立度の高い方に対しては行き届いていない。 | | |

岐阜県 NPOグループホームすずらんの木

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンをつかみながら、また、本人の様子を見ながら声かけを行い支援している。 | 利用者の半数は、自立度が高く、一定の間隔でトイレに誘導している。他の人は、排泄パターンや表情、サインを把握し、小まめにトイレ誘導し、失敗の少ないように支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎朝のヨーグルト、水分の摂取、野菜の多い食事、体を動かすことを心がけている。主治医の指示の下、下剤や浣腸を使用している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 2日おきに入浴日を設定しているが、希望や必要に応じいつでも入浴して頂いている。体調をみながら希望をきいたり、タイミングに合わせて声をかけ、楽しい会話を心がけながら入浴している。自立している人は夜間でも好きな時間に入浴している。 | 入浴の希望があれば、設定日外でも入浴できるように応じている。就寝前の希望者が多いが、全て受け入れ、浴室では、楽しい会話に心がけている。消極的な人には、相性の良い職員が介助している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 長時間の離床が身体的に負担になるような方に対しては、様子をみながら休息を促している。寝具の調整や清潔、室温などにも気を配っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方に変更があった場合は、業務連絡ノートで確認を行っている。薬の管理は職員で行っており、薬を渡し飲み終えるまでの確認、その後の体調の変化にも気をつけている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入所時に家族から情報を頂き、日々の生活に取り入れたり、本人に合った役割、楽しみなどケアプランに反映させて取り組んでいる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者の希望や状態を見ながら、外出支援を行っている。スタッフが支援できない場合、家族に相談し協力を得られるようにしている。 | ホーム周辺には、手ごろな散歩コースがあり、日常的に出かけている。食材の買出し、喫茶店、外食等へは、定期的に出かけ、温泉、観光地、寺など、普段行けない所へは、家族と協力して支援している。 | |

岐阜県 NPOグループホームすずらんの木

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 居室でのサイフの管理が困難な人に対しては事務所で預かることで安心感を持って頂いている。買物や受診の際は各自サイフを持っていくよう促し、お金を使うことの支援も行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の希望があった時は家族の都合を考えながら支援している。手紙や葉書などのやり取りも支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 清掃を心がけ、毎日掃除している。季節の花を飾ったり、風鈴をかけたたり、季節感を採りいれている。室内温度にも配慮している。 | 利用者は、広い食堂兼居間で、日常を過ごしている。居間は、掘り炬燵のある畳のコーナーに、季節の花が飾られている。壁や廊下には、利用者の手づくりの標語、絵画がある。廊下には木彫りの置物や提灯が配置されており、生活感を出すよう工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下のソファで気の合った人と話したり、台所の椅子でコーヒーを飲んだり、和室で横になったりと思い思いに過ごしてもらっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具等持ち込んで頂いたり、写真を職員と共に飾ったりして馴染みの部屋となるよう努力している。 | 使い慣れた家具や家族の写真、ぬいぐるみ、仏壇など馴染みの物が置かれている。テレビ、携帯電話、カセットラジオや仏壇を持ち込んでいる人もいて、これまでの生活の継続を支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室の前には大きな名札、リビング入り口には提灯、風呂場ののれん、便所の貼紙などわかりやすく混乱なく過ごせるようにしている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 2172800290 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 すずらの木 | | |
| 事業所名 | NPO グループホーム すずらの木 (2ユニット) | | |
| 所在地 | 岐阜県下呂市萩原町羽根437-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年10月5日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価票(2ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎月3回の勉強会とカンファレンスにおいて理念に基づいた課題(パーソンセンタードケア、ICF)を用いて、職員間の理解を深め、日々の介護に反映できるよう努めている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的に散歩や買物に出掛け、買物時は利用者に品物を選んでもらったり、外食、ドライブ、ピクニックなど地域や学校の行事(祭り、運動会見学)への参加もしている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 普段からホームへの出入りを自由にして頂いているが、夏季に夏祭りとして地域の方々に参加していただけるよう声をかけ、地域の皆さんと楽しんでもらう機会を作ったり、定期的に新聞を作り、ホームでの生活を伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年も行えていないが、スケジュールを調整している。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 面会や施設訪問の中で話し合いながら協力関係を築くよう努めている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については、勉強会などで学んでいる。特殊な例があった場合は、ご家族の理解・承諾を得ることにしている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 研修等に参加し、虐待について勉強会などで理解し、防止に努めている。入浴時など、日常的な関わりの中で、利用者の様子に気を配るようにしている。また暴力だけでなく、精神的な虐待についても理解を深めるようにしている。 | | |

岐阜県 NPOグループホームすずらんの木

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修に参加し、理解を深め、制度を利用することができるよう準備している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所時にはご家族や本人と話す機会を作っている。契約の説明を職員、管理者と行き、理解・納得を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者には日頃から意見を伺うよう努めている。面会に家族が来られた時や、イベント時に家族会を設け、意見要望を聞いている。また、会議で意見、要望などについて話し合いをもっている。家族には月1回ホームでの生活を手紙で報告し、訪問時にも伝えるようにしている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見、提案を日常的に聞き、勉強会などで提案し話し合いをもっている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課を行い、職員の勤務状況を把握し、声をかけている。環境、条件の相談が出来る。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の能力の把握に努め、研修会や講演会、勉強会に積極的な参加を促している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修等への参加によって、他施設を知る機会を持ち、ホームのサービスを客観的に評価し質の向上に役立っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面談にて利用者の生活状況・不安・希望を知り、情報交換し、信頼関係を築けるよう努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の不安・希望を情報交換し、職員が同じようにかかわり、信頼関係を早期に築けるよう努力している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者・家族・ケアマネからの情報を基にして、必要なサービスを見極めるための検討を職員間で行っており、実行できるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事等に参加していただくことにより、職員と楽しみ、悲しむ時間を持っていただいている。一緒に生活するものとして信頼関係を築けるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 手紙や面会等で利用者の気持ちや状況、を情報提供し介入するようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている | 以前から利用している商店等の利用、知人との交流を促す。家族よりセンター方式への記入を頂き、情報を活用できるよう検討している。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の中に職員が介入することで、スムーズな会話へ誘導したりすることで、その後の関係につなげていけるようかかわっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所された場合でも、デイサービスの利用等があれば継続したサービス提供できるよう準備をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の意向に沿うよう、職員間で情報交換・検討しケアプランに活かしている。状況の変化に合わせて柔軟に対応し、利用者本位であるようにしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者・家族(センター方式)・近隣の方・ケアマネからの情報を得るようにしている。職員間で情報を共有し、ケアに活かす工夫をしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 入所前の生活状況を前提に、利用者の表情・言動に注意している。介護記録等を活用し、利用者の全体像の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | センター方式の一部を家族に記入して頂き、情報を得ている。利用者の意向を最重視し、カンファレンス等で繰り返し話し合いながらケアプランを作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の介護記録を活用し、ケアプランの作成に役立てている。介護記録により、職員間の情報共有ができており、継続したケアの提供ができる。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 生活状況に変化があった場合に、適宜カンファレンスを持ち、プランを変更・追加し、柔軟に対応するよう努めている。各機関との連携・情報交換も積極的にしている。 | | |

岐阜県 NPOグループホームすずらの木

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事や設備を利用し、利用者の参加を促しているが、今後も生活状況に応じて利用できるよう、支援していく。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 在宅時のかかりつけ医より情報提供を受け、継続して医療提供が受けられるよう配慮している。近隣の医療機関と提携し、必要な医療提供を受けている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 受診・訪問診療の際、情報交換を密に行っており、適切な医療・看護を受けられるよう努めている。必要な助言を受け、ケアの際、活かしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入退院の際に、情報提供書にて情報交換を行っており、継続したケアが行えるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時、その後体調に変化があった際に、適宜家族と話し合い、意向を確かめ納得いただいた上で、利用者本位のケアを行えるよう、職員間での話し合い・各機関との提携を進めている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時などの観察や連絡は身についてきているが、応急手当など、実技について職員全員が同じように行えるよう、もっと勉強しなくてはならない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の防災訓練を行っているが、実際の災害時にどの様に動くか、日頃より職員全員で確認していかなくてはならない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ICFやパーソンセンタードケアを取り入れ、勉強会等で職員の意識を高めている。人生の先輩であることを意識しながら利用者と接している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 希望の表出を促すよう関わるようにしており、押し付けにならないよう様々な場面で声掛けをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の生活の流れに沿ってケアを提供できるよう準備している。希望を表出されない(認知症状の重い)利用者の支援をより充実させたい。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理容・美容院の利用、着衣の選択、化粧の促しなど、楽しんで生活できるよう、環境を作り、支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と献立を考え、一緒に料理、盛り付け、配膳・下膳、片付けをしている。季節のものを取り入れる等、楽しんでいる。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 多種類の食材を使い調理をし、おやつの間や、適宜水分摂取を促し、栄養や水分の調整をしている。利用者の持病に合わせて注意深く調整するよう心がけている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯磨きの声かけ、義歯の洗浄、自立度が低い方へは介助をしている。 | | |

岐阜県 NPOグループホームすずらんの木

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者の様子を見ながら排泄チェック表の活用し、排泄パターンを把握することでトイレ誘導等の支援をしている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 乳製品・繊維の多い食品の摂取の促し、散歩に誘う等運動の促しをしている。必要時、主治医に指示のもと、下剤・浣腸等を使用している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日(2日おき)に限らず、希望があればいつでも入浴していただいている。体調に合わせて、入浴時間を調整したり、前後の水分摂取等配慮している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室には好みに合った寝具を用意し、室温調整もこまめに行っている。寝具の清潔にも配慮し、天気の良い日は布団を干している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方内容について変更があれば業務連絡ノートで確認し、薬効・副作用も勉強するようにしている。薬の管理は職員が基本的に行い、必要な利用者には服薬確認をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 畑仕事・台所仕事・洗濯物干しなど、それぞれの得意分野で楽しみながら自分の仕事だという役割意識を高めてくれるよう関わっている。強制はしない。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者から希望があった場合は可能な限り意向に沿うようにしている。買い物、散歩等が中心で、職員との外出が多い。家族・友人との外出なども促していきたい。 | | |

岐阜県 NPOグループホームすずらの木

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望時に財布をお持ちいただいて、受診や買い物の際に使っていただいている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者からの要望に応じ、可能な限り行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 不快や混乱を招かないよう、安全な環境を作るよう努めている。コタツや装飾で居心地よく過ごせるようにしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファーや畳の部屋等で、気の合ったもの同士でおしゃべりを楽しんだり、のんびりできるスペースを作っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 寝具、家具は自宅で使用していたものを持ち込んでいただき、使っている。家族の写真や、カレンダー等、自分の部屋として感じられるように配置し、過ごしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用頻度の高い場所には張り紙や目印等を使い、認識しやすいよう工夫している。ものの場所を変えない。 | | |